

胃腸薬成分の分類・成分名		特徴		副作用	留意すべき事項	
制酸薬	胃酸を中和または吸着し、過酸による胸やけ・胃痛を即座に改善する。 飲んだ後、ゲップ(炭酸)が出る。 あくまで頓服用。 解熱鎮痛成分による胃障害を予防目的でもよく使われる	炭酸水素ナトリウム	いわゆる重曹。あく抜き・入浴剤・汚れ落としなど多用途	Na過剰で血圧上昇・むくみ等 Ca過剰症あり	炭酸水素ナトリウムは塩分摂取制限のある人はなるべく避ける。(Na量×2.5=塩量) 沈降炭酸カルシウムは甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症患者には禁忌。また、ビタミンD3を服用している人はCa過剰に注意 腎機能低下者は蓄積による過剰症に注意 Alとアルツハイマーの関連性に結論は出ていない。 Mg、Ca、Al類と腸内でキレート形成し、吸収が妨げられる薬剤がある。 普段から化マグを飲んでいる人が、知らずに併用する場合もある。	
		沈降炭酸カルシウム	中和と吸着作用で制酸作用を示す	下痢傾向、Mg過剰症あり		
		炭酸マグネシウム	医療用の酸化Mgと同様、少量では胃酸の中和、多く飲むと軟便作用。Mg含む。炭マグは重量挙げの滑り止めという一面も。			
		水酸化マグネシウム	胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成し胃粘膜保護作用も示す	Mgは下痢傾向、Alは便秘傾向 長期多量服用ではMg、Alとも過剰症(吐き気、意識障害等)あり。		
		合成ヒドロサルタイト(Al+Mg)				
		水酸化アルミニウムマグネシウム(サナルミン)	中和とケイ酸コロイドによる吸着作用で制酸作用を示す	ショック、SJS、Lyell 症候群、肝障害、黄紋筋融解症他多数		
ケイ酸アルミン酸マグネシウム	食事に関係なく過酸症状時に頓服。Tmax、T1/2ともに3時間					
H2ブロッカー	胃酸の分泌を抑制する。	ファモチジン			症状を繰り返す場合は病院の受診し原疾患の確認を。他に飲んでいる薬も確認。	
抗コリン薬(副交感神経抑制薬)	胃腸の働きを抑制し、胃酸分泌、胃腸の痙攣を止める。	ロートエキス ブチルスコポラミン臭化物	胃や腸の痙攣による痛みによく使われる。胃酸に対しては制酸薬のほうが早い。基本的に頓服。	抗コリン作用(発汗抑制、口渇、便秘、眼圧上昇、排尿困難など)	通院の有無と併用薬の確認は必須。緑内障、前立腺肥大、腸閉塞の人には販売しない、または主治医に相談の上服用すべき。	
局所麻酔薬	胃痛、むかつき、吐き気を抑える	オキセサゼイン	胃腸や大腸の粘膜に麻酔をかけて痛みをとり、胃液分泌、胃腸運動を鎮める。過敏性大腸症の下痢症状や、しゃっくりにも効果がある。	便秘、食欲不振、口の渇き、口内のシビレ。眠気、頭痛、めまい感	副作用少なく安全性が高い。長期連用は控える。	
健胃薬	胃や腸の働きを増す	センブリ(苦味)	生薬の苦味や芳香などが味覚や嗅覚を刺激し、反射的に唾液や胃液の分泌を促進。また、胃粘膜を直接刺激し、消化管運動を促進。	特にない	サプリメントのL-カルニチンは脂質代謝に関与する物質、塩化カルニチンは主に胃での消化活動に関与する物質なので、混同しない	
		ケイヒ(芳香性)	副交感神経を刺激し、消化機能を亢進させる			
		塩化カルニチン				
消化薬	消化を促進させることで胃もたれ、胃重感などに効果がある	消化酵素	ジアスメン・ジアスターゼ	でんぷん消化酵素	特にない	ジアスターゼはグルコバイ(α-グルコシダーゼ阻害剤)服用中の患者には注意 消化酵素の至適PHは6~8で胃内では不活性。制酸薬と一緒に胃でも効く。
			プロザイム	蛋白消化酵素。		
			リパーゼ	脂肪消化酵素。胃液や膵液に含まれる。		
			セルラーゼ	せんい消化酵素。植物繊維(セルロース)を分解する		
整腸薬	腸内の善玉菌を増やすことで大腸のpHを下げ、大腸菌の繁殖を抑えることにより、大腸の環境悪化による諸症状(下痢や便秘、にきび、肌荒れ、おならや便が臭い、腸の老化、ガンにかかるリスクなど)を改善する	ビフィズス菌	主に大腸で乳酸と酢酸を産生して腸内のpHを低下させ、大腸菌などの増殖を抑える。	特にない	整腸薬の服用は酸性度が低めの食後が良い。また、菌が死んでしまうので熱いお湯で飲まない。 整腸薬は継続的に服用するのが効果的。 脂肪やたんぱく質の多い肉食は悪玉菌を増やす。 炭水化物は善玉菌を増やし、食物繊維は腸内の有害物質を吸着・排泄する。	
		アシドフィルス菌 フェカリス菌	主に小腸で乳酸を産生して腸内のpHを低下させ、大腸菌などの増殖を抑える。また、ビフィズス菌などの増殖を助ける。			
		有孢子性乳酸菌	胃酸に強く、腸内で発芽・繁殖し、乳酸を生成して大腸のpHを低下			
		納豆菌	胃酸に強く、腸内で発芽・繁殖し、ビフィズス菌などの増殖を助ける。			
粘膜保護・修復薬	胃粘膜を強くする薬。また、胃酸で痛んだ粘膜の自己修復を促進する	テブレノン	医療用のセルベックス。胃粘液・血流増加作用、防御因子増強作用	特にない	空腹時では吸収率が低下する 継続服用が効果的	
		MMSC(メチルメチオニンスルホニウムクロライド)	ビタミンUとよばれるキャベジンの主成分。薬効はテブレノンに類似。肝機能改善効果もある			
		カンゾウ(甘草)	胃粘膜保護、胃けいれんを鎮める作用、抗炎症作用などを示す。	過量長期で偽アルドステロン症	カンゾウ含有製剤の併用を確認する必要あり	
		アルジオキサ	医療用のイサロン。組織修復作用と制酸作用の成分の合剤	特にない	腎機能低下者はアルミニウム症のおそれ 便が緑色になることがあるが心配ない	
		銅クロロフィリンカリウム	葉緑素成分由来。メサフィリンの緑色は銅クロロフィリンナトリウム			
ガス駆除薬	ガスでおなか張って苦しいときや、ゴロゴロするとき	ジメチルポリシロキサン(ジメチコン)	医療用のガスコンで、いわゆるシリコン。消化管内容物中の小さなガス気泡を、表面張力低下させることにより破裂させ、げっぷや放屁として排泄、または血流中に吸収されやすくする	特にない	稀に軟便、胃部不快感、下痢、腹痛、吐き気、食欲不振、頭痛などの症状がでることも?	
漢方製剤	胃のもたれ、不快感、胃炎などを改善	安中散と芍薬甘草湯の合剤	安中散は胃腸機能を改善し、胃酸量を調節する。芍薬甘草湯は胃の筋肉の緊張をほぐし、胃の痛みを緩和する	過量長期で偽アルドステロン症	カンゾウ含有製剤の併用を確認する必要あり。 胃への直接作用を期待して、食べる前に、飲む。	